

# 市民の皆さん 新年明けまして おめでとうございます

年頭に当たり、市民の皆さんのご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます

## 枕崎市長 瀬戸口嘉昭



▼昨年は、国内外とも波乱の年でした。驚異的な原油や諸物価の高騰は、産業界だけでなく国民生活を直撃しました。加えて、米国発の金融危機は世界同時不況をもたらし、円高により、自動車産業を中心に大打撃を受け、派遣社員の大量解雇など、大きな社会不安となりました。

今年こそ世界の首脳が英知を結集し、この窮状を乗り越えていく方策を示して欲しいと願っています

昭和天皇の御歌「あめつちの神にぞいのる 朝なみぎの海のごとくに 波たため世を」のような日が一日も早く訪れることを祈りたいと思います。

▼さて、昨年の十一月十六日、ブラジル鹿児島県人会創立九十五周年、県民移住百年記念式典がブラジル・サンパウロ市で開かれ、伊藤知事を団長とする県友好親善使節団九十六名が参加しました。枕崎市からも市長、議長など七名が参りました。三泊七日という駆け足の日程でしたが、枕崎出身の方との「ふるさと交流会」など、多くの方々と交流・交歓ができました。詳しくは広報まぐらざき十二月号から三回に分けて報告しております。

題がありますが、ぜひとも実現させたいと努力しています。これが実現しますと、枕崎だけでなく、南薩一円の人の流れ、物の流れが大きく変わり、観光客など交流人口も増え、活気が出てくるものと期待しています。

▼市では、枕崎駅の駅舎（休憩所・トイレなど）を何とかつくりたいと、協議会で協議しています。協議会で様々に提案されていた話をまとめ、きちんとした方向性を決め、市と市民の力を結集して、二・三年のうちにはつくりたいと考えております。ありがたいことに市民の有志の方々が寄付を募り、立派な看板もできまして、プランターを置いたり、コスモスを植えたりしていただいています。口

ータリークラブの方々からベンチの寄贈もありました。これらの好意に応えたいと思います。

▼学校給食センターの整備について。今のセンターは建築してから三十八年経ち、老朽化がひどく、保健所からも改善するよう指導されています。市単独でやることも検討しておりましたが、南さつま市と共同で作る話が出て、現在協議中です。建設コスト、毎年の運営コストを考えた場合、広域化も選択肢の一つだと考えています。共同で取り組むことで、単に財政的なメリットだけでなく、衛生管理の行き届いた最新の設備により、安心・安全なおいしい給食が提供でき、また、広域化で本市の農水産物の消費拡大も図られるものと考えています。学校給食は、食材の購入も献立も市の責任で行いますので、広域化しても心配ありません。ただし、設置場所など、最後の詰めを行っています。その結論を待つて最終的な判断をしていきたいと考えています。

▼今年が、枕崎市民の皆様の記憶すべき年です。この年を市民の皆様と共に大いに盛り上げ、喜んでもらえる意義ある年にしたいと企画立案中です。今決まっている主なものとしては、室くじスポーツフェア・ドリムベースボール「名球会・OB会」の招致、京セラ名譽会長稲盛和夫氏の記念講演会、NHK朝のラジオ体操などです。市民の方々のご意見も寄せください。

今年が、枕崎市民の皆様にとって、希望に満ちた年であり、枕崎市発展の年であるよう願っています。



村営船「みしま」(1196)

### 市長年頭のあいさつ

# 行財政改革の取組をはじめ 市政全般について報告

## 市民と市政を語る会①



■今年も昨年に引き続き、3回目となる「市民と市政を語る会」を、10月20日から市内10会場で開催し、250名余りの市民の方の参加がありました。市長から、行財政改革や各種事業の実施状況などに市政全般について「市政報告」を行い、市民の皆さんからの意見・要望等をお聞きしました。今月号では「市政報告」の内容等について紹介します。

### ■市政報告の主な内容

#### 【行財政改革関係】

■行財政改革については、18年度から20年度までの3年間で、120項目のうち110項目が実施済みである。その結果、3年間で約6億4,480万円の削減となり、当初目標の4億円を2億4,480万円上回った。

■枕崎市養護老人ホーム「妙見の里」については、行財政改革と更なる福祉の充実の一環としての民営化について委員会を設置し、慎重に検討を重ねてきた。その結果、平成21年4月から実施されることについて、その経過を含めて説明を行った。

#### 【公共事業対策・災害対策】

■社会資本の整備については、国、県の事業による花渡川・中洲川の改修がほぼ終わり、川の水流をよくするため小川橋から松の尾橋までの区間の河床掘削も行った。2か所のポンプ場も4月から稼働する。

#### 【市民協働・地域活性化関係】

■厳しい財政事情の中だが、「市には金がない」と言うのではなく、市民とともに現地に外向き、互いに知恵を出し合えば成し得ることも多いと指導してきた。ゼロ予算事業の取組みをはじめ、きばらん海港まつりでの三尺玉の打ち上げ、県民体育大会直前の会場周辺の草刈りや瀬戸桜公園の整備など、市民協働の形で多くの市民の協力を得て、大きな成果を上げることができた。

■市内商店街の活性化は急務である。そこで、「枕崎で買える物をしよう」、「枕崎のものを食べよう」、「枕崎の土産を贈ろう」と提案してきた。その一環として、市職員にも呼びかけ、ボーナス時には大多数の市職員が商品券購入に協力をしてくれた。これらと呼ば水として、地元商店街の活性化につなげていきたい。

【汚染米・有価物質メラニン問題】  
汚染米の問題については、幸いに本市の施設には納入されていないことが判明した。有価物質メラニンの混入問題については、市立病院と妙見の里で1日だけ提供した業務用菓子パンへの混入が分かったが、基準値を下回り、健康

### 【教育関係】

■枕崎高校、鹿児島水産高校の両校は、進学・就職面においても優れた実績を残しており、また「海の日」の清掃作業等をはじめ、市民協働の行事等にも多大な協力をいただき非常に感謝している。しかし、生徒数の減少が悩みとなっており、昨年4月の広報紙から両校の取り組みを紹介するページを設けた。まず市民に学校を知ってもらおうという気持ちからであり、ぜひ地元高校のよさを理解し、地元高校進学の気運を盛り上げてもらいたい。

■小中学校校舎の耐震化診断について、昨年は桜山小学校の診断を実施したが、今後、順次実施したい。また夏場の猛暑対策として、昨年は小学校12教室、中学校7教室、特別支援室に扇風機を設置した。財政状況のみならず今後できるだけ早く全教室に設置したい。

### 【消防広域化】

地域の消防力強化を図る国の指針に基づき、本県においては、市町村合併と異なり、消防団自体は各市の組織として残り、また消防署などの施設が移り変わるものではなく、主に本部の所在地等について検討されていくことになることを報告した。

【割愛した項目】  
その他、給食センターの建設、「フェリーみしま」の就航実現に向けた取り組みのほか、国保税の税率改定、枕崎駅周辺の整備促進など多くの事項について報告しました。